

連載寄稿

宮前ガバナンス8月号

川崎市の行財政改革を検証！

川崎市議会議員 石田やすひろ

平成14年度から始まった行財政改革は10年目を迎えました。この行革は一定の効果を見つつも、23年度決算見込みの市債発行残高(借金)は3会計合計で、1兆5021億円余と依然高い水準を示しています。そこで、これまでの行財政改革を検証します。

阿部孝夫川崎市長は行政の効率化と無駄の排除を目指した「行財政改革プラン」を進めてきました。その結果、平成21年度には、収支均衡を図ることが出来ました。10年間の成果では、752億円の改革効果額を達成することに成功しました。中でも効率的だったのが、

市職員の人件費見直しです。職員数では1万6143名(平成14年4月)であったものを、1万3410名(平成24年4月)とし、2733人の削減を実現。同時に給料表や特殊勤務手当、出資法人の見直しも進め、一般会計の職員給だけでも247億円の削減に成功しています。

行革で生み出された財源は市民サービスへの還元や様々な施策に役立てています。例えば、小児医療費助成の通院費では、小学校就学まで無償としてきたものを、この9月から小学校1年生まで拡大します。その他、水道料金の負担の軽減、公園や道路の維持補修にも利用されています。

これまでの行財政改革は、評価に値します。私も議会で行財政改革の必要性を訴えてきました。財政が健全であって初めて市民サービスの質の向上へとつながります。今後も市の改革に対しては、厳くチェックを、また「新たな行財政改革プラン」(平成23年度から平成25年度)を支持し、推進してまいります。



川崎市立犬蔵中学校卒業、明治大学大学院(公共政策修士)修了、国会議員の秘書を経て1999年28歳初当選。現在4期目。子育て支援策の強化や区役所機能の強化を推進する。その他、政策を議会で提案し多数実現している。議会発言後は、必ず駅頭や広報紙を作成しその内容について積極的に市政報告を実施。

その他 ブログ等は

市議会議員 石田やすひろ

検索

今月の1枚



宮前区少年野球連盟主催、秋季大会開会式に参加。始球式でその役を務めました。